

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376500357		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム輝楽苑 コーポA		
所在地	愛知県豊川市御津町御馬浜田148番地		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が「外に出る」「地域と触れ合う」という事に課題をおき取り組んでいる。運営推進会議を通じて地域との関わりを考える事ができている。職員同士の意見交換も活発である。集団生活の中での個別ケアについても、ケアプランに本人の思いや要望を盛り込み、毎日生き生きとした生活が送れるような支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は日常生活の中で利用者が今何をしたいのか、何を望んでいるのか考えて行動している。利用者の出来る能力を奪わないように、根気良く待つことも出来る様になり、利用者の笑顔が増えてきている。リビングには「感謝」「真心」「愛」の言葉が掲げられており自然に視線に入ってくる。職員はそれを目にするたびに言葉の意味を心に重ねていることを察する。日々多忙の中で利用者への豊かな心遣いとして反映されることと思う。研修もパート職員も含め万遍なく勉強する機会があり意欲的である。ホーム主催の地域交流会は認知症の勉強会を開催したり、社会福祉協議会や地域包括支援センターと共に認知症サポーター養成講座を行うなど認知症の理解との関わりを大切に考え実践している。家族からは「相談や要望は親切に対応してもらえ安心である」との声もあり家族との関係も良好である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とは別に独自の理念を掲げている。理念は分かっているが奥が深く、利用者の一人ひとりのプランを理解し、今以上に職員が連携しケアサービスを提供できるようにしていかなくてはならないと思う。	職員は理念を周知しており、日常生活の中で、理念を踏まえて、利用者のその時の状態を観察して利用者本位のケアサービスに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と触れ合う機会が少ないが、運営推進会議を通じてどのように関わっていくかを考える事が出来ている。参加可能な行事の情報を更に得て、積極的に参加したい。	町内会に加入しており、地域行事の清掃や夏祭りに参加している。月1回公民館で「いきいきサロン」が開催され、利用者は、地域住民とゲームや食事を楽しみ、地域との繋がりを築くよう努めている。	ホームは幼稚園、青年ボランティア、地域住民のボランティア等受け入れしているが、小学生との交流も是非加えより地域に根ざしたホームになるよう期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を社会福祉協議会の職員・包括支援センターの職員の方と行い、グループホームや認知症について地域の方に理解していただく機会を設けた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、活動報告や評価への報告を行い意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月毎に行っている。ホームの地域交流会について、出席者から活発に意見交換があり、運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村に出向いたりし、連携を図る努力をしている。	職員は豊川市主催の連絡協議会に参加している。市役所には書類の提出やホームの現状報告をしている。他に情報をもらうなどや助言を受けることもあり協力関係を築くように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道がすぐそばにあり、大きな事故も考えられるため防犯ブザーを設置し、日中は鍵をかけずに対応している。利用者の不安の原因や意味を話し合い対応している。	身体拘束についてのマニュアルはあり、研修も行っており、職員は身体拘束をしないケアの必要性を周知している。また、言葉使いにも気をつけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉による虐待にも注意し、言葉遣いについても定期的にチェックしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解しているわけではないので、今後、勉強会を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ十分説明し、納得を得た上で入居に結び付けている。施設としての出来る事や出来ない事もこの場で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見ボックスを置いているがほとんど入っていない。信頼関係が築けているご家族から、「この施設のためだから」と意見を頂戴している。頂いた意見については、職員に伝え改善に向け取り組んでいる。	管理者が家族から直接聞いている。アンケートからも要望や意見は良く聞いてもらえるとの声がある。もらった要望や意見はサービスの質に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気づきや意見、アイデアをすぐ実践できるようにしている。	月1回全体会議の中で意見は少しずつ出ている。出された意見は統括責任者には伝えて、改善できるものは改善している。管理者は職員の日常の様子や態度に変調がある場合には声をかけて話し合いをしており、職員がストレスをためないよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一回個々の職員に対し、評価を行っている。個々に目標を掲げており、それに向けての達成度も確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修に段階的に参加するようにしている。法人内の研修会にはパート職員も積極的に参加している。外部研修では復命書を回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等の研修に参加し、他施設との交流を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、希望や要望を聞き入れサービスに反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の抱えている悩みや問題について聞き共感し、解決に向けてのアドバイスをしたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学に来ていただき、本人・家族の方に環境の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを否定せずと同じ気持ちになって聞き入れながら関わっている。また、一人ひとりに合わせできる事は行っており、喜びを感じていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話す機会を作り生活状況を伝え、家族の希望も聞き入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内での生活が増えてしまっており、外へ出る機会が減っている。今まで本人が行ってきた事、買い物や、場所などに出て行けるようにしていきたい。	ホームに友人が来訪する人もいる。馴染みの美容院や床屋には出かけている。1ヶ月に1回公民館で「馬っこサロン」がありそこで知り合いと話をすることがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で過ごせるように、利用者の関係を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者・家族が困った事があれば相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々個々の利用者に関わる事を大切にし、本人の思いを言いやすいような接し方を心がけている。	利用者との日々の会話や関わりを通し、その人の思いや希望の把握に努めている。どんな状況でも「どうして～なんだろう」と、常に相手の立場に自分を置き換えて、思いに寄り添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活をどのように過ごしてきたか生活歴や会話の中から把握し、得意としている事を見つけ出し、やる気に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に出来る力を大切に考え対応している。身体状況にも注意し、24時間シートを活用し状況の変化を見落とさないように観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをしっかりと行い、家族・本人の思いを大切に考えたケアプランを作成している。また、定期的に話し合いの場を設け、意見交換を行って上で作成している。	各担当制を設けて、利用者の日々の暮らしぶりや状況の把握に努め情報収集をしている。定期的にカンファレンスで情報の共有とモニタリングを実施している。利用者の希望を含め、家族やDrとの連携を図り、意向などをケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より細かく記録に残す事で話し合いの際、資料として使用している。日々、気付いた事疑問に思った事も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調、状態の変化に応じて職員同士で話し合い、ケア内容の変更もしている。本人の思いも大切に考え、出来る範囲内でサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センターの職員と情報を交換し、地域と関わっていけるよう助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医より月2回の往診がある。その他、家族が希望する医療機関の利用も行っている。	月に2回協力医の往診があり、利用者の状況に合わせてDrからアドバイスや情報の提供をしてもらっている。また、利用者の希望のかかりつけ医へは基本的には家族が対応しているが、都合がつかない場合などは職員が付き添いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の入居者の様子を医師や看護師に定期的に報告し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院に細かな情報提供を行っている。家族の方との連絡や、病院関係者から情報を得て、現状や今後について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に合わせて、家族の方と医師を交えて話し合う機会を設けている。施設で出来る事・出来ない事を話し、理解を得ている。	希望に応じて看取りを実施している。入居の際、ホームで対応出来る事と出来ない事を説明し、利用者の状況に合わせて話し合いを行い方向性を決めている。情報の行き違いなどで家族が混乱しないよう、職員同士の情報共有をしっかりと行い、安心して終末期を迎えられる環境作りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にも慌てないよう、対応方法を書面化し、目の届くところに置いてある。夜間帯の連絡方法も確認できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。地域の民生委員の方にも助言をいただき行っている。	年に2回、夜間と日中を想定して実施している。消防署の協力のもと、民生委員、地域包括支援センターの職員が参加し助言やアドバイスをもらっている。反省会も毎回実施して次の訓練に活かすように取り組んでいる。備蓄品も常備してある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、本人が気分を害さない対応を心がけている。尊敬の気持ちを忘れないように対応している。	言葉かけや支援が、指示や指導にならないよう利用者の主体性や思いを尊重したケアを心がけている。又、管理者は職員のケアが慣れ合いにならないよう注意を促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手を出しすぎず、個々の能力にあわせ、さまざまな角度からの声かけを行い、できる範囲で行っていただいている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からの希望が聞かれないときなど、職員の都合になってしまうこともある為注意したい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行かれる方や、季節に合わせた衣装、いつも同じような衣装にならないよう気を配っている。また、入浴前など一緒に衣類を選ぶようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時間をかけても自力摂取していただけるよう心がけている。席にも注意し、気の合う入居者同士が話しながら摂取できるよう支援している。準備も無理な声かけは行わず、「何かする事はありますか」と言われたら行っている。	利用者の状態に合わせ、出来る範囲で手伝いをしてもらっている。強制するのではなく自然な形で、自分の役割として参加してもらえる雰囲気作りをしている。また、誕生日ケーキやちらし寿司などの行事食も一緒に作り楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量をチェックしている。必要に応じ、水分補給・栄養補給を行っている。飲み込みの悪い方にはゼリーにし、水分が確保できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。一日一回入れ歯も消毒している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を記録し、トイレへお連れする時間を考えている。また、動作でも感じ取れるよう観察している。羞恥心にも配慮し、介助を行っている。	言葉をかける際、自尊心を傷つけないよう配慮している。排泄チェック表を使用し、ひとりひとりのパターンを把握してWCに誘導をしている。	今は排泄チェック表を頼って時間通りにWCへ誘導していることが多い為、今後はその人のリズムに合わせた排泄ケアを目指したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のおやつに乳製品やフルーツを提供している。便秘時はセンナ茶を飲んでいただいたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日を通し入浴できるように準備は行っている。入居者からの希望は少なく、職員の都合で入浴していただく事もある。	基本的に毎日希望時に入浴が出来るようにしている。利用者の生活リズムから大体の時間は決まっているが、入浴を拒否する利用者などには、声かけや時間をずらして勧めるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も眠気に応じて居室にて休んでいたいている。夜間不眠についても眠剤には頼らず、原因を見つけ出していく努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の種類、副作用などマニュアルを作成し、いつでも職員の目の届くところに置いてある。個々に勉強をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事ばかりに目を向けてしまっており、個々に楽しめる事が活かされていない。出来る人、出来ない人の差も激しい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への買い物、散歩も訴えに合わせて出かけるようにしている。外出行事も大切に考え、五感を刺激していただける場所を考えている。	天気の良い日などには近所へ買い物や散歩に出かけるように努めている。また、行事外出として初詣や花見、紅葉狩りへ出かけ季節を感じ楽しんでもらえるようにしている。	もう少し日常的に外出が出来るような体制と時間をつくり、利用者と一緒に外出が楽しめる環境にしていきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の管理能力に応じ、ご家族と相談しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えに応じ、電話を使う機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に本を置いたり、花を飾ったりと目で見え楽しむ環境を作っている。	利用者が集まるリビングは広々とし、こたつがある和室と、いつでも好きな所でくつろげるようフロアーにはいくつかソファが置いてある。そこから見渡せる中庭から明るい日差しが入り、心地良く過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツを置いたり、個別にテーブルを置いたり少人数で過ごせる場を設けている。また、個々の好きな場所や空間を把握する事により、それぞれが思うように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすやテレビ等、自宅での馴染みのものを持ってきていただけるようお願いしているが、個々に昔からの馴染みのものを置いたりされている方が少ない。	以前から使い慣れ親しんだたんすや小物が持ち込まれ、壁には家族の写真などが飾ってある。利用者が安心して快適に過ごせるよう、できるだけ変わらない環境づくりを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが付いており、障害物をなくす事により安心、安全な生活空間を提供している。また、履物も介護シューズ等の検討もし、個々にあわせた対応を行っている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	町内会には加入しており、回覧版は回ってくる。年1回夏に幼稚園児とはお相撲さんがホーム来訪時に一緒に交流をしている。地域のボランティアの受け入れや、また、地域の人に認知症の勉強会を開き認知症サポーターを増やしている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は年6回開催している。出席者は区長、豊川御津地域包括支援センター、民生委員、家族代表、職員である。3月の運営推進会議で防災訓練を消防署予防課職員の指導のもと行い、出席者より意見が活発にだされ有意な会議となった。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市役所には、書類提出時にホームの現状報告や福祉に関する質問をして助言を受けることもある。また、管理者は地域包括支援センター職員や社会福祉協議会の職員と認知症サポーター養成講習を地域で行っている。また、職員は豊川市主催の連絡協議会に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	職員は普段から話しやすい雰囲気を作り、家族の来訪時には必ず声をかけて話を聞くように努めている。家族交流会もあり、話をする機会は良くある。月1回「おきらく新聞」と法人の新聞を発行してホームの様子がわかるようになっている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は地域との交流に力を入れているホームである。事業所としてや利用者と地域との関わり方など思考錯誤しながら努力している。地域で認知症サポーター養成講座を行ったり、地域公民館の「いきいきサロン」に出向くなどホームの地域交流会に努めている。また、運営推進会議を定期的に開くことでより地域との交流が根づいてきている。家族からは意見や要望は言い易いとの声はあり、家族との交流は良好である。
--

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

